

# 子育てに関するアンケート

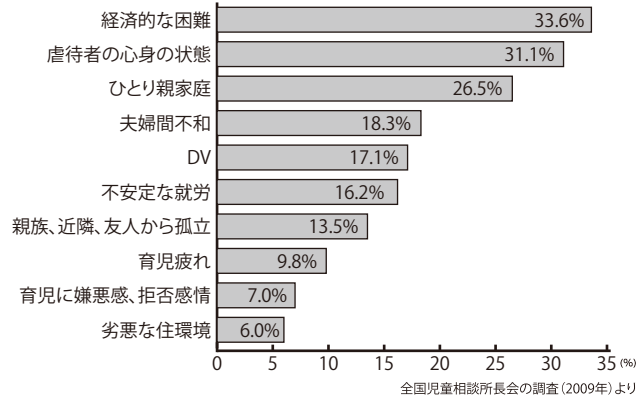
## 1 子育て安心の社会へ、市の施策として何が必要だと思いますか。(○で囲んで下さい。複数OK)

- 1, 子どもの医療費無料化など経済的支援
- 2, 少人数学級の推進など学校教育の充実
- 3, 保育所や学童保育の増設
- 4, 公園や児童会館などの増設
- 5, 通学時の見守り活動など地域の安全対策の推進
- 6, 子育て教室などの拡充
- 7, 子育て広場など自主的なとりくみの支援を強化
- 8, その他 ( )

## 2 虐待から子どもを守り、安心できる子育てのためのご意見をご自由にお書きください。

切り取り線

### 虐待につながるとされる家庭の状況



虐待の相談対応件数は全国で、昨年4万4210件にもなっています。虐待につながる要因は、「経済的な困難」がトップです。

大阪では、母子家庭の48%が年間総収入150万円未満。ダブルワーク、トリプルワークなど、昼夜働いている

### 虐待が広がるのはなぜ？

お母さんも少なくありません。貧困により、子育てに不可欠である時間や情報、ゆとりが奪われていることが、虐待が増える背景にあると言えます。

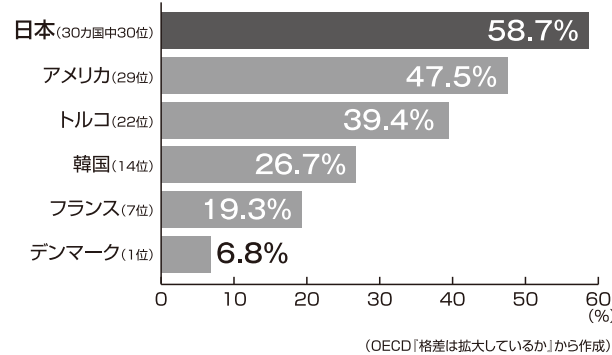


# 安心して子育てできる社会をめざして

### 孤立した子育て

また、生活や子育てに困ったとき、気軽に相談したり頼れる親や友人が身近にいない人が増えていることが、虐待を未然に防止できない要因ともなっていると、指摘されています。

### ひとり親世帯の貧困率

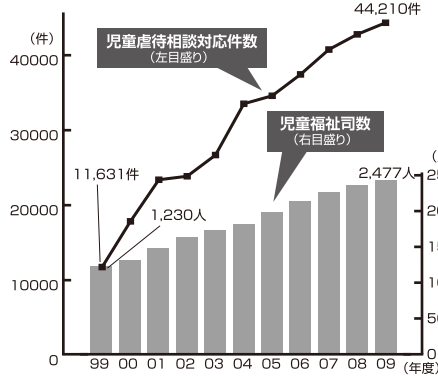


### どうして考えますか

地域住民で子育てを支援しようとする的など、ゆとりも広がっています。どうすれば子育て安心の社会にできるのか、みなさんとともに考えたいと思います。どうぞお気軽にご参加ください。



### 急増する虐待に追いつかない児童福祉司数(全国)



虐待の相談を受ける児童福祉司(ケースワーカー)は、1人で約78件(大阪府平均)に対応しなければならず、とてもきめ細かい対応ができる状況ではありません。

また、保育所の待機児童が1396人(大阪府・4月1日現在)にのぼるなど、行政の支援が充分ではありません。

### おいつかない行政の支援

### 子育てのことなど市政相談は 日本共産党 吹田市議会議員団へ



### これまで日本共産党吹田市議団が主催したシンポジウム

1997年 7月	吹田操車場跡地利用を考えるシンポジウム	2002年 10月	吹田の街づくりを考えるシンポジウム
1998年 9月	高齢者の福祉と介護を考えるシンポジウム	2003年 9月	ごみ問題を考えるシンポジウム
	10月 スポーツ・シンポジウム	2004年 3月	文化シンポジウム
1999年 9月	「男女平等の促進」を求める吹田シンポジウム	2005年 4月	子育てと子どもの安全を考えるシンポジウム
2000年 3月	マンション・シンポジウム	2006年 7月	「格差社会と公的責任」を考えるシンポジウム
	11月 子育て・少子化問題シンポジウム	2008年 3月	「地域医療」を考えるシンポジウム
	12月 障害者施策を考えるシンポジウム	2009年 3月	吹田の地域経済と産業振興を考えるシンポジウム
2001年 6月	吹田の商工振興を考えるシンポジウム		